



香南GENKIっ子！よさこい初出場

香南市こどもよさこい連合会

8月10日(日)高知市で開催された「第55回よさこい祭り」に市内小学生ら約80人の「香南市こどもよさこい連合会」が初めて出場しました。

各学校から集まって7月下旬から練習に励んできた子どもたちは、よさこいを通じて仲良くなりました。祭り当日は市役所前で結団式を行い、いざ会場へ。知寄町競演場では一部音が出なくなるトラブルもありましたが、みんなで歌いながら踊りきりました。追手筋や秦演舞場などでも元気な踊りを披露しましたが「もっと踊りたい！」というたくさんの声に、午前中踊れなかった菜園場競演場に再チャレンジ。予定通り踊りきった子どもたちは満足顔で帰路につき、楽しい夏の思い出をつくりました。



キャンプ！たのしーい！！

舞川キャンプ場再開

7月29日(火)高知市の児童養護施設「南海少年寮」の園児から高校生ら、約25人が舞川キャンプ場を訪れ、アメゴつかみや川遊びを楽しみました。2年ほど休んでいたキャンプ場も昨年からの復活し「環境が良く、また来たいと思っていたので良かった」と参加者らは喜んでいました。今年オープンから30年目。8月中旬までに170人ほどが利用し、にぎわいをみせています。

管理する小松光広さんは「今後は応援も欲しいが、後継者も育てていきたい」と話していました。



大きくなって戻ってきてね

吉川みどり保育所ヒラメ放流



7月15日(火)水産資源を増やす目的で高知大と連携して毎年ヒラメの放流事業を行っており、市の中間育成施設で育てられた1万匹のうち、手結漁港から8,000匹、吉川漁港から2,000匹放流しました。

吉川漁港で放流した吉川みどり保育所の5歳児13人は、10cmほどの稚魚をバケツに入れてもらうと「おおきくなってねー！」と叫びながら何度も往復しては海へ運び、この海でヒラメが大きくなるのを、楽しみにしていました。

家族を奪った戦争を忘れない

震洋隊慰霊祭

終戦の翌日、夜須町の住吉海岸で起こった爆発事故により犠牲となった旧海軍特攻隊「震洋隊」の隊員111人をしのぶ慰霊祭が、8月16日(土)住吉海岸で行われました。遺族や戦友など約70人が参列し、軍艦旗を掲揚した後、慰霊碑に合掌しました。

今年で9回目になるという広島から来た遺族は「わたしの父は5歳の時にここで亡くなりました。毎年、慰霊祭を行っていただき奉賛会の人には感謝しています」と感慨深げでした。



初めての体験に大喜び！

市社会福祉協議会「障害者交流事業」



8月9日(土)市社会福祉協議会が、市内の障がい者と保護者を対象に、カヤック・ヨット体験教室を夜須町「シースポ」で開催しました。

初めてのこの企画に44人が参加。ライフジャケットを身につけ、海でぷかぷかと浮く人や、カヤックやヨットで早速海へ繰り出す人など、真夏の海を気持ちよく楽しんでいました。参加した障がい者の生き生きした表情に保護者からは、「来年もぜひ参加したい」と今後も続くことを期待する声が聞かれました。

押し寄せる音楽の波

あまーい博 よさこいサマーフェスタ 天然色劇場

8月2日(土)「花・人・土佐であい博」の夏の特別イベントとして「よさこいサマーフェスタ」が開催され約3,500人が天然色劇場に集まりました。若い人に人気の「FUNKY MONKEY BABYS」「いきものがかり」や秋川雅史さん、岡本知高さんなど豪華アーティストが集う舞台上、高知出身の織田哲郎さんとゲストの大黒摩季さんが「世界中の誰よりきっと」や「ら・ら・ら」を熱唱。観客もリズムに合わせて手を振ったり体を揺らしたりと音楽を通じ世代を超えたイベントになりました。



あまーいひと粒を探せ！

東川ブルーベリー収穫体験祭



7月27日(日)東川活性部会主催のブルーベリー収穫祭が千舞温泉周辺の農園で行われ、関係者ら約80人が参加しました。平成18年から植え始めた木は5種類、約420本に。参加者らは渡されたパックを手に思い思いの木で「これ甘い！」「こっちはまだ酸っぱい〜」とにぎやかにブルーベリー狩りを楽しみました。

また、ブルーベリーを使った蒸しパン、ジュース、ジェラートの試食も好評で、中谷眞明部会長は来年からの観光農園開園に期待を寄せていました。